

地域における水資源のフロー・ストックの検討について

1 これまでの経緯と検討の目的

昨年度の懇談会においては、再生水利用の物理的可能性に関して、品川区・港区に地区を対象として、供給面では、下水管網および原水（下水処理水）量、需要面では、雑用水（雨水・再生水）の利用実態を概観（図 1-1 参照）した。

・品川区・港区だけで全国の雑用水・再生水利用の 4% を占める。
 ・東京都全体では、個別循環方式での利用が多いが、インフラの整備されている品川区・港区などの地域では、さらなる下水処理水の雑用水利用が考えられる。

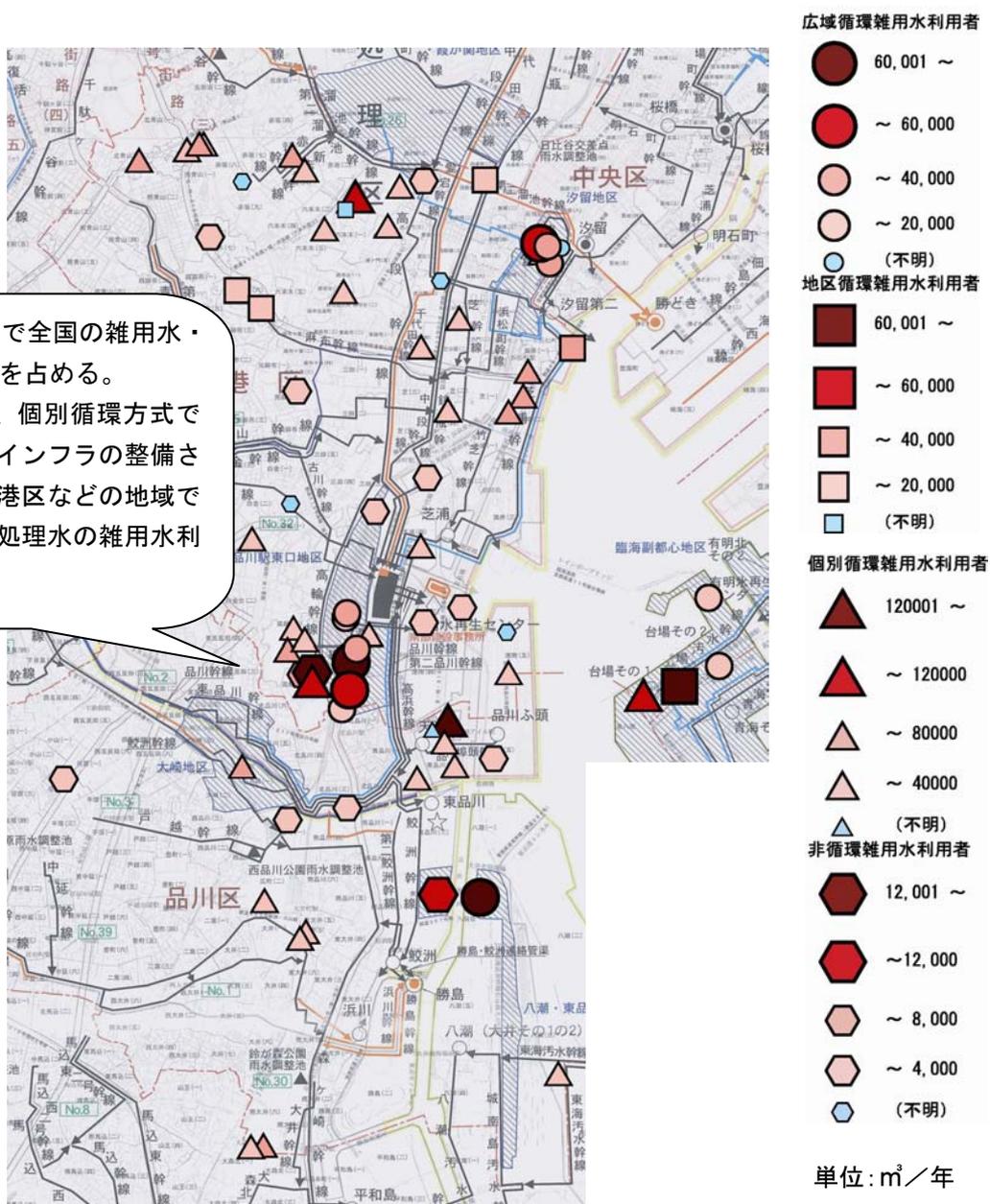


図 1-1 品川区・港区における雑用水利用施設

懇談会の中間とりまとめでは、「都市に流入・流出する水と、都市内にストックされている水の水質や水量に関する情報を集約し、どのような組み合わせで活用すれば効率的で高付加価値の水循環が形成出来るかについて、関係部局と連携して検討をすすめるべきである。」とされているこ

とから、今年度は、供給面では、再利用可能な下水処理水の水量・水質・処理方法、需要面では、地域の水循環実態を踏まえた再生水ニーズ（場所、用途、水量、効果等）にまで調査対象を広げ、再生水供給実現のための課題（技術的課題、費用、その他）等について検討していく予定。

なお、検討にあたっては、流域水循環の再構築方策や下水道サテライト処理について検討されたことがある相模川流域を参考例とし、既存調査等を活用して、中間とりまとめで示された、ストック面、フロー面に着目した検討を進める予定。

2 検討の内容

(ア)(イ)について、定量的に把握し、流域地図に箇所と水量等を表示（図 2-1 参照）

(ア) 再生水の供給について

- ・再生水管を含む下水管ネットワーク及び下水等の流量
- ・サテライト処理可能な箇所
（一定以上の流量がある、サテライト処理場が付近で確保可能等の条件を設定※）
※神奈川県既往検討成果（資料4 参照）を参考資料として活用する。
- ・サテライト処理場での処理量（再生水の量）

(イ) 再生水の需要について

- ・流域で期待される再生水需要
記載される需要について、場所、水量、水質等を整理
例：公園の親水空間確保、水枯れした小河川や水路等への通水、夏季のヒートアイランド緩和のための路上散水、・・・等
- ・今後想定される再生水需要
例：大規模地域開発にあわせた再生水供給設備の整備、地下水源の涵養、工業用水や農業用水への提供、・・・等

(ウ) サテライト方式による再生水供給の課題について

- ・水量、水質、費用等供給のための課題について整理
- ・関係者へのヒアリングに基づき、課題及び解決策の方向性を整理

(エ) (ア)~(ウ)をふまえ、流域で想定される再生水利用シナリオを設定

- ・流域において想定される再生水利用シナリオ及びシナリオ実現のための条件について検討

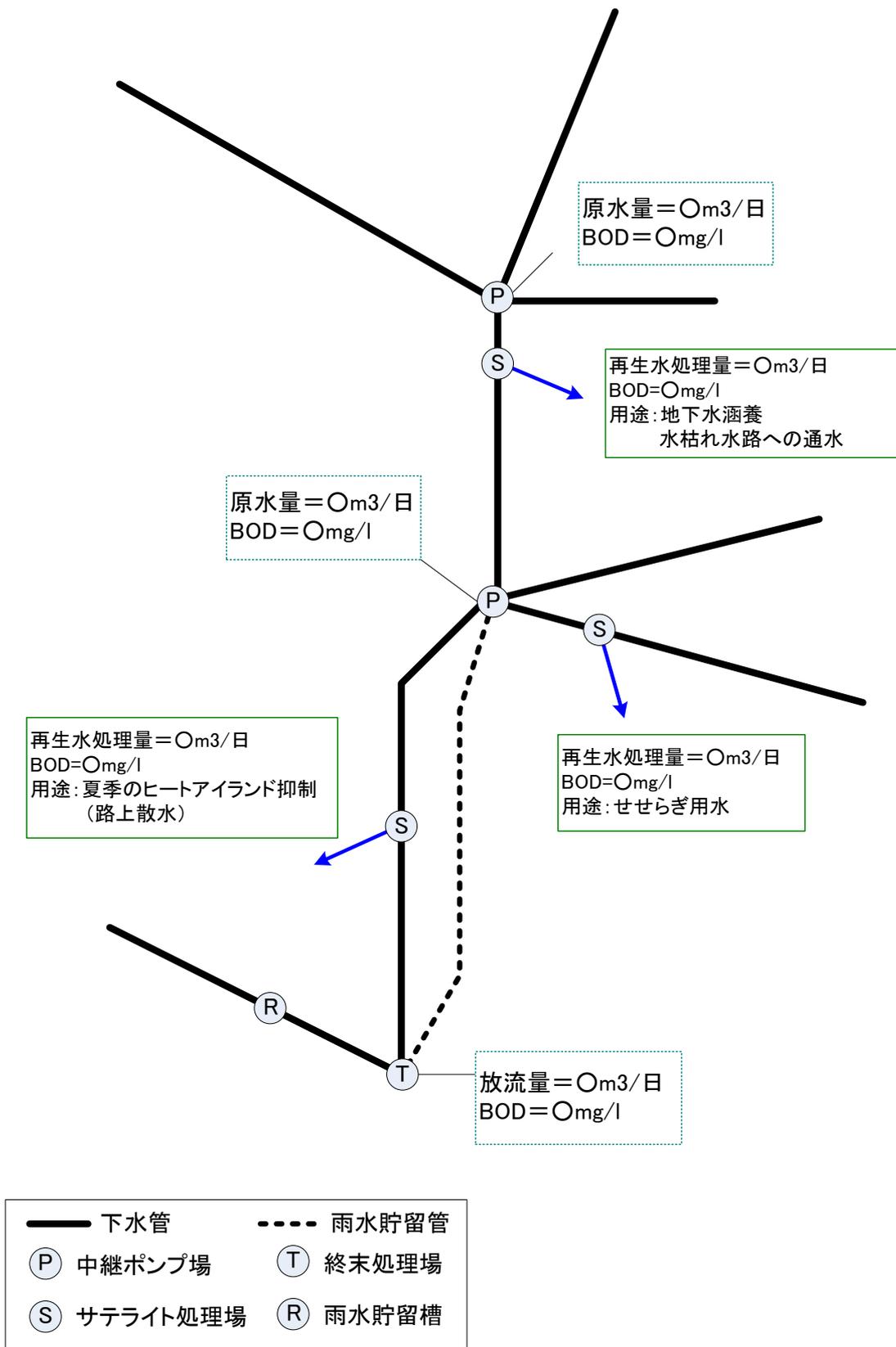


図 2-1 再生水の供給可能性と利用の組合せイメージ